



東北活性研
公益財団法人東北活性化研究センター

2024年度 事業報告会

地域課題解決に向けた実践的活動について

公益財団法人
東北活性化研究センター
地 域 ・ 産 業 振 興 部

本日も説明する事業

- ①. 東北・新潟の「キラ☆^{ぼし}企業」
- ②. 東北・新潟の「キラ☆^{ぼし}パーソン」～新しい働き方編～
- ③. 人口の社会減と女性の定着に関する情報発信
- ④. 東北・新潟 ^{ダイバーシティ} D & ^{インクルージョン} I ネットワーク勉強会
- ⑤. TOHOKUわくわくスクール
- ⑥. 地域活性化に関するプロジェクト支援

① 東北・新潟の「キラ☆^{ぼし}企業」



若者の定住・還流を促すため、東北・新潟の優れた企業を「キラ☆企業」として認定し、各社の魅力をWebサイトで紹介しています。

東北・新潟のキラ☆^{ぼし}企業 一覧はこちら→



キラぼう

① 東北・新潟の「キラ☆企業」

新たな需要やビジネスの開拓、成長分野への事業展開などに取り組む企業を「キラ☆企業」として公開。2024年度は新たに公開した9社を含む316社を紹介しています。

[2025年3月10日現在]



船の建造と修繕、地域の水産業を支える

株式会社みらい造船

新築・修繕

塗装

漁業用船舶など各種

スモールアップ修繕

漁船や船内・船底

修繕が出来る

プライベートと商船も船

※お電話に入りにお繋ぎする

小野さん、吉田さん

工場長

小野君 快問さん

入社年 2020年

宮城県東松島郡田舎

★メッセージ

会社見学への参加で、地域に貢献したいと決意

船乗りになる夢もありましたが、東松島の水産業を支える、船を修繕したいと思い入社しました。会社見学に参加して、この会社で地域に貢献したいと思い入社を決定しました。

たくさんの人との関わりを通して成長できます

仕事の内容は、現場の管理、修繕です。船の修繕の準備をしたり、他の乗組員と打ち合わせしたり、修繕のために上った船の船内作業をやりながら、仕事をやり分けます。また、船修繕で修理船でも自分たちでできることは仕事に入ります。現場での仕事をやりながら、現場で学んでいきます。

工場にいると40分くらいで会社の色んなことに関わることになります。たくさんの乗組員と連絡、指揮を行っている中で、字に口が多くて、自分の成長につながっていることが実感できたと感じます。

コミュニケーション能力や協調性が大切

船づくりは1人ではできません。たくさんの人とチームで仕事をします。

そのため、コミュニケーション能力がとくめ大切だと感じます。電話や学校生活を通して、コミュニケーション能力や協調性、広い視野を身につけておくこと、どんな道に進んでもプラスになると感じます。

★ 企業情報

業種

自動車、特殊用機器

事業分野

当社は、主に100〜500トンクラスの船殻をメインに、建造・修繕・検閲を行っています。

新造船の建造は年間約6隻、修繕・検閲のために上記する船は年間的に30隻あります。

新造船のみならず、全国集約の船殻を担っています。

船はすべてオーダーメイドで造ります。船主さんの要求がカギになる。そして新造船の船殻を造る大変な仕事です。

会社の強み

新造船の船殻は100年以上前から造られてきました。東日本大震災で被災して、先代たちが守ってきた造船業をこれから100年先まで残し、水産業を守るとの思いを胸に、私たちは日々未来を要請しながら働いています。船づくりの能力は、船は決して一人では造れない。様々な協力会社と一緒にチームになって多くの人が携わって造れることです。そういった人たちとスタッフを結んで、船主さんの要求や希望、期待を叶えることが、私たちの仕事です。

これからの未来を、船主さんや地域が求めることを要請しながら、当社ならではの技術を活かして、質なる価値にも貢献していきます。

新造船ではなくてもいいが、この地場の産業を支えています。あなた、その一員になりませんか？

会社概要

会社名	株式会社みらい造船
所在地	〒988-0034 宮城県仙台市青葉区阿賀2番地5
設立年	2015年
代表者	代表取締役 木戸浩 取締役
資本金	2,330万円
従業員数	155人
電話番号	0226-25-8984
URL	https://miraiships.co.jp/
SNS	Instagram

※ここにクリックすると

最新情報は、2024年9月28日

加盟企業

株式会社トーン精肉

株式会社山本屋

株式会社三益精肉製作所

「東北・新潟のキラキラパーソン」に就

株式会社ツルツル

商會を設立しました

「宮城県」「自動車・特殊用機器」の企業から探す

該当する企業はありませんでした

② 東北・新潟の「キラ☆^{ぼし}パーソン」～新しい働き方編～



キラリと輝く人たちを  YouTube で配信中！

東北圏を舞台に、自分の夢の実現のために様々な分野で活躍しているキーパーソン取材し、「キラ☆パーソン」としてYouTube動画で発信。東北圏においても、自分の夢や理想とする仕事・暮らしを実現できることを広く若い世代に知っていただき、東北圏で働き暮らす魅力を訴求しています。

東北・新潟のキラ☆^{ぼし}パーソン 一覧はこちら→



② 東北・新潟の「キラ☆パーソン」～新しい働き方編～

2024年度は、「新しい働き方」をテーマに、様々なチャレンジ(起業、交流の場づくり、ダイバーシティ推進等)をしている6人の方々を取り上げ、活躍の秘密を紹介しました。



③ 人口の社会減と女性の定着に関する情報発信



「人口の社会減と女性の定着に関する意識調査」(2020年度)による提言を踏まえ、従来の地方創生施策のあり方を見直し、真の地方創生実現に向けて、2021年度から継続して実施しています。

【2024年度実施内容】

1. 人口減少・少子高齢化の進む青森県の状況を、データを基に正しく理解し、女性や若い世代の雇用、若年層の地域定着について参考としていただくフォーラムを開催【青森フォーラム】
2. 東北圏出身で、就職や転職を機に東京圏へ転出した若年女性を対象に、インタビュー形式でその理由・背景等を調査・分析を行い発信【インタビュー調査】

③ 人口の社会減と女性の定着に関する情報発信

レポートはこちら
第1部 第2部

人口の社会減と女性の定着に関する情報発信 青森フォーラム



人口減少・少子高齢化が進む青森県の状況について、データを用いて正しく理解していただくとともに、男女間や親子など世代間のアンコンシャス・バイアスを払拭し、「女性や若い世代の雇用」「若年層の地域定着」について参考としていただくことを目的に、2024年7月24日(水)に青森市で開催しました(会場84人／オンライン125人参加のハイブリッド)。



第1部：基調講演
**【緊急報告】10年で4割減少する青森県の20代人口
～対前年20代人口流出率全国ワースト1の衝撃～**
講師 天野 馨南子 氏
株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部
人口動態シニアリサーチャー



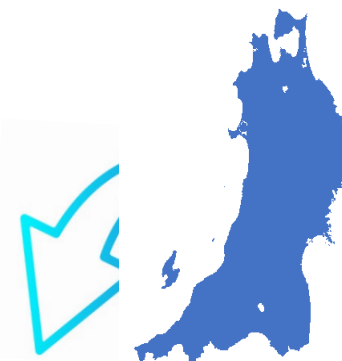
第2部：パネルディスカッション
青森県が若い世代に選ばれる地域になるために
(パネリスト)
・天野 馨南子 氏
・堤 静子 氏 八戸学院大学 地域経営学部 特任教授
・浜田 大豊 氏 株式会社生き活き市場（虹のマーケット）専務取締役
(ファシリテーター)
・松田 英嗣 氏 あおもり創生パートナーズ株式会社 取締役

共催：青森県、(一社)東北経済連合会 後援：青森市、青森商工会議所

③ 人口の社会減と女性の定着に関する情報発信

インタビュー調査

東北圏出身で、就職や転職を機に東京圏へ転出した若年女性を対象に、その理由・背景等に関するインタビュー調査を行いました。
東北圏から若年女性が域外へ雇用で流出する問題に対し、若年女性の考える問題点・解決策をまとめ、発信しました。



■ 調査対象

東北圏出身で、以下の属性にあてはまる女性14人

- (1) 就職・転職を機に東京圏に転出
- (2) 20歳～29歳
- (3) 現在就業している
- (4) 高等専門学校、専門学校、短期大学、大学、大学院のいずれかを卒業
※最終学歴地も東北圏

■ 調査手法

- ・実施日
2024年9月28日(土)、29日(日)、10月1日(火)
- ・実施方法
Web会議システムを活用したオンラインインタビュー
(個別インタビュー 45分/人)

I. 調査概要・対象者属性

- I - 1. 調査概要
- I - 2. 対象者属性

II. 東京圏の企業に就職（転職・異動）した理由

- II - 1. 就職活動をした地域
- II - 2. 就職をした地域
- II - 3. 東京圏の企業に就職（転職・異動）した理由

III. 東北圏の企業・自治体に望むこと

- III - 1. 就業先に望むこと、希望した働き方
- III - 2. 東北圏の企業・自治体に望むこと

IV. 調査結果のまとめ

【企業向け】

採用活動

働き方の効率性・柔軟性の向上

女性の働きやすさの改善・キャリア支援の強化

【自治体向け】

若年女性が暮らしやすい環境整備



レポートはこちら→

③ 人口の社会減と女性の定着に関する情報発信

インタビュー調査：調査結果まとめ(企業向け:①～③、自治体向け:④)

1

採用活動

女性の新卒で就ける職種を増やし、
ホームページの充実など採用活動のオンライン化を図る

若年女性が考える問題点

- 新卒採用での女性の職種の幅が狭い。募集が中途採用に絞られていることが多い。
- 公務員試験日が重複しており、受験しにくい。
- IT企業の就活でも、エントリーシートは紙媒体での提出となっている。
- 大手就職サイトへの掲載が少ないなど、オンラインで企業を探しにくい。
- 採用担当者は年配の方が多く、威圧的に感じる。

若年女性が考える解決策

- 中途採用だけではなく、新卒で就ける職種を増やす。
- 公務員試験日を分散し、受験者の選択肢を増やす。
- 採用ページの充実、リモート面接の実施、SNSの活用など、採用活動のオンライン化を図る。
- 就活イベントや採用面接等では、就活生と世代の近い若手社員が対応する。

2

働き方の効率性・柔軟性の向上

IT化やペーパーレスを推進し、業務の効率化を図る。また、リモートワークを積極的に推奨し、若年層が重視するタイムパフォーマンス向上に寄与する

若年女性が考える問題点

- 業務のIT・ペーパーレス化が東京圏ほど進んでいない。
- 雪が多い地域や遠方から車で通勤する人がいる中、リモートワークが導入されていない。

若年女性が考える解決策

- ITを導入し手作業・紙作業を減らし、業務効率化を図る。
- リモートワークを導入し、家庭や育児との両立のしやすさや、悪天候時の安全な勤務を可能にする。

3

女性の働きやすさの改善・キャリア支援の強化

女性の職種・管理職枠の拡大、産休育休後のキャリアアップ支援、
ロールモデルの育成など、女性が活躍しやすい環境を作る

若年女性が考える問題点

- 東京圏に比べて女性営業職が少ない。
- 東京本社に比べ、業務量やチャンスが少なく、成長面で同期と差がついた。
- 現場スタッフは女性ばかりなのに上司は男性が多いので相談がしづらい。
- 産休育休後に管理職になりにくい。
- 同じ職種でも東京圏と東北圏では給与に大きな差がある。

若年女性が考える解決策

- 事務職以外の職種でも女性を積極的に採用し、その実例を増やしていく。
- ロールモデルとなる女性社員を育成する。
- 産休育休からの復帰後もキャリアアップを目指す環境を作る。
- 家賃補助や寮の整備など、一人暮らしを支援するサポートなど、福利厚生を充実させる。

4

若年女性が暮らしやすい環境整備

若年女性に寄り添った対応を行うとともに
娯楽の充実を図るなどして、暮らしやすい環境を整備する

若年女性が考える問題点

- 東北圏は年功序列を重んじている印象があり、慣例を大事にし過ぎており、息苦しさを感じる。
- ライブや推し活などの趣味活動が東京圏でしか実現しない。

若年女性が考える解決策

- 多様な視点を尊重し、柔軟な対応を心がける。
- 趣味や推し活が充実させられるイベントを誘致・開催する。
- 東北圏も東京圏のように、地域ごとに特色がある街づくりを行う。

④ 東北・新潟の ^{ダイバーシティ} D & ^{インクルージョン} I ネットワーク勉強会

東北・新潟におけるD&Iの推進に向けた企業間の情報共有とネットワークづくりを目指すとともに、企業のD&Iへの理解促進、具体的な取り組みにつながるきっかけとなる場を提供することを目的に全4回開催しました。

	内容	実施日	参加人数
第1回	これからのリーダー① －部下が上司を育てる「コーチングアップ」－	6/20	22名 / 17社
第2回	これからのリーダー② －心理的安全性を高めるコミュニケーション－	8/27	28名 / 18社
第3回	デュアルキャリア・カップルを増やすには？	10/24	14名 / 10社
第4回	「共働き・共育て」 男性社員によるパネルディスカッション	12/12	27名 / 14社

共催：(一社)東北経済連合会、(公財)21世紀職業財団



⑤ TOHOKUわくわくスクール

東北圏に居住する小学生・中学生・高校生を対象とし、当該地域に所在し活躍している様々な分野の企業や団体とを繋ぐ出前授業です。

学問の面白さや楽しさに触れつつ、地元の企業や団体の活動内容に触れることで、地元の地域社会・産業の理解を深めるとともに、将来の選択肢の参考としてもらうことを目的に実施しています。

ホームページでは
全ての授業のレポートを公開中!

TOHOKU わくわくスクール

検索

<https://www.kasseiken.jp/wakuwaku/>

登録企業・団体の募集

TOHOKUわくわくスクールにご賛
同いただき、ご協力いただける企
業や団体を随時募集しております。

月 日 () 日 時

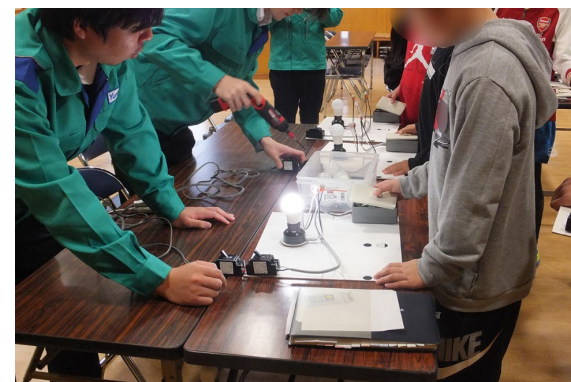


共催:(一社)東北経済連合会



⑤ TOHOKUわくわくスクール

2024年度開催実績：77回



⑥ 地域活性化に関するプロジェクト支援



地域・産業の活性化に関するプロジェクトの具体化を支援することを目的に、東北圏の地方自治体や非営利団体(観光協会、商工団体、NPO、産業関連団体等)が主体となるプロジェクトに対し、支援・協力を行っています。

2024年度は、「地域デジタル人材育成支援」をテーマに、プログラミング体験を通して次世代の子どもたちを育み、地域におけるICT人材のすそ野を広げる取り組みへの支援を行いました。

特設サイトはこちら→

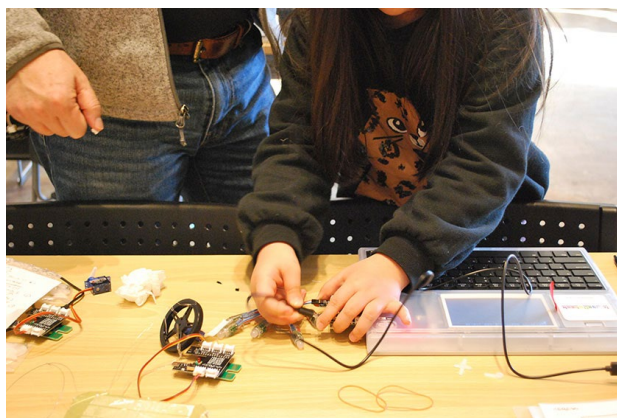
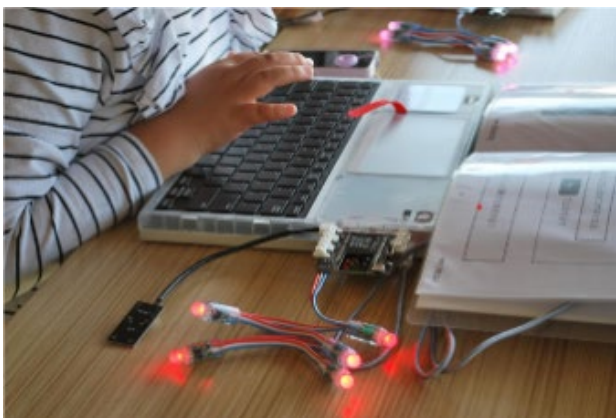


⑥ 地域活性化に関するプロジェクト支援

[2024年度概要]

今年度の支援先である一般社団法人ICTてらこやでは、「ICTで遊び、学び、つながる。未来の扉を開く」のビジョンの下、ICT体験のワークショップや放課後ICT体験事業、東北在住の小中学生を対象としたプログラミングコンテスト「とうほくプロコン」の開催など、東北圏全体にICT体験を広げる活動に取り組んでいます。

当センターは、ICT体験に必要な教材・カリキュラムなどのノウハウを活動場所へ提供し、学校でのプログラミング教育を補完する学びの機会を創出するとともに、地域全体のICTリテラシー向上を目指すICTてらこやの活動を支援しました。



とうほくプロコン2024へ出品した
「リデュース・リユース・リサイクル
森のクリスマスツリー」



東北活性研

公益財団法人 東北活性化研究センター

ご清聴ありがとうございました

2025年 3月18日（火）

公益財団法人

東北活性化研究センター

地域・産業振興部 秋山 尚弘